鹿児島歴史資料防災ネットワーク 2024年度の活動報告

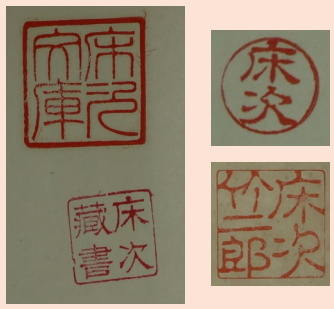
ー歴史資料の保全から能動的市民性の育成を目指してー

発表者：伴野文亮（鹿児島大学）

【課題】
地域住民みずからが主体的に地域の歴史文化と向き合い、未来への継承の担い手となる枠組みを構築するためにはどうすればよいか？

【実践①：床次蔵書の復元】

＊総務省自治大学校が所蔵する床次竹二郎（1862-1935、鹿児島出身の内務官僚・政治家）の旧蔵書について、蔵書印や書入れの有無を調査。
＊床次文庫の由来：床次の死去後、蔵書を鹿児島に移送、鹿児島新聞社が一時管理。1942年（昭和17）に敬天舎に移管。1978年（昭和53）に地方自治研究センターに寄贈、現在は自治大学校が管理する。敬天舎に残る床次蔵書を合わせた蔵書全体の復元、蔵書の書入れ・蔵書印から見える床次の蔵書の利用の実態を解明。
＊多様な蔵書印のほか、書入れや線引きを確認。



多様な蔵書印
（自治大学校所蔵）

【実践②：入来家資料の調査とデジタル化】

＊いちき串木野市の教育委員会と郷土史研究会の協力のもと、明治の実業家で地域の指導者であった入来定穀の日誌のデジタル化作業を実施（2024年6月1日）。
＊鹿児島大学生も参加し、資料のデジタルデータ化を完了。
＊慶応期から明治後期にいたる定穀の日誌を素材として、定穀の人物像と同地域の歴史を詳らかにする基盤を整備。

デジタル化の作業風景

【実践③：ワークショップの企画と開催】

＊志布志市教育委員会と金剛寺の協力のもと、ワークショップ「志布志 金剛寺の古いフスマから歴史を取り出そうワークショップ」を開催（2024年9月15日）。
＊約30名が参加し、金剛寺のふすまを解体。下張りに文書が存在することを確認。

【今後の展望】
＊地域に根ざした一般市民による歴史研究の基盤・枠組みの整備。
＊民間所在資料に加え「地域史料としての公文書」を保全する意義の共有。

※本研究は日本学術振興会学術研究助成基金助成金・基盤B「能動的市民性の形成を目指す歴史資料保全研究の新展開」（課題番号：23K21961、代表者：丹羽謙治）の成果の一部である。